

高等学校にて新学習指導要領が実施されて1年が経過しました。今回の改訂の最も大きな柱は、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の3つの柱（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）で再整理され、「観点別学習状況の評価」のより一層の充実が求められていることです。

授業等を通してこれからの新しい時代に必要な資質・能力を育成するためには、「目標 - 指導 - 評価」が一体となった授業改善が欠かせません。単元ゴールを意識してパフォーマンス課題を作成し、指導の実際を通して学習評価を意味あるものにする。それらの営みが、生徒の学習改善、さらには教師の指導改善につながっていくはずですが、本年度は年2回の公開授業週間にパフォーマンス課題とルーブリック等の評価法の作成・活用が一体となった授業改善に全教師で取り組みます。是非、先生方の知見を蓄積していきましょう！！

パフォーマンス課題と評価法の作成・活用

パフォーマンス課題とは、

「さまざまな知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題」と定義付けられています。

つまり、

「授業で身に付けた知識やスキルを、多様な活動を通して、表現する言語活動」と捉えてみてはどうでしょうか。

具体的には…

プレゼンテーション、エッセイ、研究レポート、実験レポート、朗読、ディベート、実験、演劇などが挙げられます。単元等のまとめの学習であり、それらを成果物として保管しポートフォリオとして活用しましょう。

作成のポイント

1 パフォーマンス課題が4つの視点を含んでいる

- 真正性（リアルな課題になっているか）
- 妥当性（測りたい学力に対応しているか）
- 関連性（生徒たちの身に迫り、やる気を起こさせるような課題か）
- レディネス（生徒たちの手に届く課題か）

→ まずはどれか一つの視点を意識してやってみましょう！特に生徒が真正性等、「学ぶ必然性」を感じられる学習課題がポイントになります。

2 各単元、単元や題材のまとまりでの実施

→ 年間指導計画を踏まえ、まずは学期に1～2回程度、計画的に取り組みましょう。本年度は公開授業週間を活用して取り組めるチャンスです。

3 単元導入時にパフォーマンス課題を提示し、教師と生徒が学習ゴールを共有（アウトプット予告）

→ 各単元で教師と生徒が学習ゴールを共有することで、生徒は学習の見通しをもつことができ、安全・安心な学習環境で学ぶことができます。ゴールを事前に決めることは、単元開発・教材開発・授業開発にもつながります。

4 パフォーマンス課題を見取るルーブリックの作成（多様で多面的な評価）

→ 事前に学習ゴールを決め、指導前に評価方法（ルーブリック等）を作成しておく（逆向き設計）ことは、**3**同様大切な視点です。作成した評価法を通して知見を共有し合い、年度毎にさらによいものにしていきましょう。

5 仲間と協働的な取組（納得解・最適解）の実現

→ ICTを文房具として活用する課題解決型の授業や課題がますます求められるようになります。

6 ユニバーサルデザインの4つの視点（シンプル、クリア、ビジュアル、シェア）も意識

→ パフォーマンス課題は、ユニバーサルデザインの4つの視点の中のシンプルに近い考え方です。

リソースガイド（スマホ等で気軽に覗いてみてください）



国立教育政策研究所
「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

福岡県教育センター
「学びを支える3つの要素」

参考文献
西岡加名恵(2009)「活用する力」を育てる授業と評価
G.ウィギンズ/J.マクタイ(2012) 理解をもたらすカリキュラム設計